

# 点猫ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■59■

皆さんも同じだと思

うが、私は「花火」が

好きだ。それなので、

これまでいろいろな

花火を見に行ってい

る。今年の夏は群馬の

花火をいろいろ見たい

なあと、思って、インタ

ーネットで調べてみた

ところ、18カ所で開催

予定だった。そのうち

今年は嬉恋、榛名湖、

高崎、前橋、老神、藤

岡、沼田、伊勢崎へ足

を運んだ。

当日は天気が非常に

気になる。出掛けた花

火のいくつかで、開始

時刻のしばらく前に雨

がさつと上がったこと

があった。そうすると、

花火の神様が晴れにし

## 夏の花火の詩物風

### 平和の象徴、本県貢献

てくれたんだと思う。感謝。  
いざ花火が始まる  
と、あちろちろから  
「うわあ、きれい」と

群馬の花火が良いの  
は、東京ほど混んでい  
ないこと。ある花火大  
会では、二の上で寝  
転がりながら見たが、

群馬の花火は少ないと  
も。

花火を見ていつも思  
うことがある。花火は  
平和の象徴では  
ないかというこ  
とだ。当然のこ  
とながら、第2

か、「あれは結構高く  
まで上がったね」とい  
う声が自然と聞こえて  
くるし、さらには「あ  
ー」「おー」など、言  
葉にならない歓声も聞  
こえてくる。みんな楽  
しんでいるのだ。  
花火の音には人間の  
耳では聞こえない周波  
数の音もあるが、膨ら  
ませた風船を抱くこと  
の音を感じられること、

開けた空に大輪の花火  
が広がるのは本場に圧  
巻だった。時間の流れ  
を忘れるぐらいに。  
日本人はなぜこんな  
に花火が好きなのだろ  
うか。それは、やはり  
群馬県で作られること

こうした素晴らしい  
花火がどこで作られる  
のか疑問に思い調べて  
みた。花火の最終形は  
他県で作られることが  
多いが、その原材料は  
群馬県で作られること

次世界大戦中は花火ど  
ころではなかったはず  
だ。花火の大きな音が  
爆音に聞こえずに、風  
情を楽しむ音であり統  
けることを強く願う。



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年  
7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年  
日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業  
務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを  
経て、2018年4月から現職。